**本大会申し合わせ事項・競技上の注意**

（第59回全国聾学校卓球大会香川大会　競技副委員長）

１　本大会の適用ルール等について

1. 現行の日本卓球ルールを適用する。
2. 試合は、全て５ゲームマッチで行う。
3. 本大会の申し合わせ事項による。

２　全試合タイムアウトルールは適用しない。

３　試合開始前の練習時間は１分以内とする。

４　促進ルールについて

　　ゲーム開始後１０分経過した場合は、促進ルールが適用される。ただし、１０分経過時の両競技者のポイントスコアの合計が、少なくとも１８ポイントに達した場合には、促進ルールは適用されない。促進ルールが適用された場合には、そのマッチ終了まで促進ルールで行われる。

５　ボール・ラバー・ラケット等について

1. 使用球は、（公財）日本卓球協会公認の40mm 3スター ホワイトプラスチックボールを使用する。

ニッタク(3スタープレミアムクリーン40+)、ＶＩＣＴＡＳ(VP40+)、バタフライ(A40+)、バタフライ(R40+)を使用するが、希望するメーカーが違う場合は対戦ごとにトスで決定する。ボールは各コートに置いているものから選択する。

1. ラバーは、JTTAまたはITTFが公認したことを示すロゴがなければ使用できない。
2. 接着剤を含むラバーの厚さが4.0㎜を超えるものや、ラバーの表面の平坦性が損なわれているラケットは使用できない。
3. 外国製ラケットで、JTTA公認マークのないものを使用する場合は、試合開始前に審判長の許可を得なければならない。
4. 選手の責任において、揮発性有機溶剤を含んだ接着剤、ラバークリーナー等を使用してはならない。
5. ラバーの貼り替えは、ロビーの指定された場所で行うこと。

６　競技用服装等について

（１）服装は、JTTAの公認マーク付きのものを着用すること。団体戦に出場する競技者は、同じ服装で競技を

しなければならない。ただし、ショーツ、スカートについては同系色であれば着用できる。

（２）ゼッケンは定められた規格（大きさは縦20㎝、横25㎝、選手名、所属名を明記）のもの、あるいは

（公財）日本卓球協会指定のものを使用する。

７　団体戦の競技方法について

1. 競技に使用するテーブルは２台で行う。
2. ４単１複とし、試合順は１番複・２～５番単とする。１番複試合終了後に２・３番単を行う。
3. １番複は２・３番の選手だけで組むことはできない。
4. 全試合３点先取とする。
5. ３人チームで対戦する場合は、２番を棄権とし、オーダー用紙提出以前にその旨を進行係に申し出る。

１番複の試合終了後、３・４番単の試合を行う。

* + 当日けが等で３人チームになった場合、そのチームの対戦相手がオーダー用紙を提出済みの場合は、

オーダーの再提出を認める。

1. ３人チーム対３人チームの対戦で２対２となった場合は、ゲーム率・ポイント率によって勝敗を決定する。ただし、ゲーム率・ポイント率とも同率になった場合は、代表者による１マッチの決定戦を行う。その代表者はチームの申告で代表者を決定する。
2. オーダー用紙の形式・提出について
   * 1. オーダー用紙は５枚複写とする。
     2. オーダー用紙はフルネームで記入し、オーダー提出所に提出する。
     3. 第１試合のオーダー用紙は、１日目・２日目ともに当日朝８時２５分までにオーダー提出所に提出する。
     4. オーダー用紙は、オーダー提出所の担当者が記載内容を確認する。監督はその確認に立会い、確認後１枚を受け取る。（１枚は自校用）
     5. 第２試合以降は、勝敗が決定後直ちに次のオーダー用紙を記入し、オーダー提出所に提出する。

（８）　今大会においては、１日目・２日目ともに８時５５分に一斉挨拶を行い、第１試合の競技を開始する。

また、２試合目以降も競技開始時刻より早めにコートに入る。

（９）　今大会においては、試合開始前の選手の読み上げは行わない。また、試合終了後の相手ベンチへの挨拶も行わないこととする。

８　抗議について

1. 個人戦ではその選手に、団体戦では監督のみ抗議権を認める。ただし、監督不在の場合は主将に認める。
2. 主審または副審によるルール解釈に関してのみ審判長に抗議できるが、主審または副審による事実の判定については、審判長に抗議することはできない。

９　アドバイスについて

1. 団体戦において、競技者はベンチにいることを認められた誰からでもアドバイスを受けることができる。
2. 個人戦において、競技者はその試合の開始前に主審に登録された一人のアドバイザーからのみアドバイスを受けることができる。
3. 競技者は、ゲームとゲームの間の休憩時間、あるいは認められた競技の中断時間にのみアドバイスを受けることができるが、練習時間終了時と試合開始の間はアドバイスを受けることはできない。
4. 手話通訳者がアドバイザーのアドバイスの内容を選手に伝えることは認める。
   * 本部が認めた手話通訳者は、ベンチの後ろに待機し、必要に応じて通訳に参加する。（主管校が提示した締切期日までに手話通訳申請を済ませた監督・コーチ及び選手には、監督会議時に主管校が決めた手話通訳者を割り当てることとする。その際の手話通訳者はビブスを着用する。）

１０　競技中のベンチについて

1. 団体戦の場合は、監督１名・コーチ１名・選手７名以内とする。
2. 個人戦の場合は、登録された監督・コーチ及び選手のいずれか１名としてベンチに入ることができる。
3. 試合前にアドバイザーまたは選手が記録用紙のアドバイザー氏名欄に氏名を記入する。
4. アドバイザー（１名）は、試合開始時に選手とともに入場する。また、試合中にベンチに入ることもできる。試合途中でコートを離れた場合でも、そのコートに復帰することができる。

１１　競技の進行は、原則としてタイムテーブルによる。ただし、試合時間が遅延した場合は、コート変更を行うことがあるので、タイムテーブルより早く試合を行う場合がある。連絡（情報保障や放送）に注意し、指示に従うこととする。

１２　ベンチの位置は、本部席側に若い番号のチーム・選手が入る。

１３　審判については、本大会は原則として１人審判で行う。なお、各競技種目準決勝戦からは２審制で行う。